

延長授業（？）がようやく始まった、かな？

先日、学生たちに、「『難病と闘う子どもたち！—私たちはこんな病気と闘っています！—』の放送があります。関心、時間ある方は、ご覧下さい。」と、メールした。

「ありがとうございます\(*^▽^*)/ 今日おでかけするのでビデオとりたいと思いますε=ヾ(*~▽~)ノ」や、「連絡ありがとうございます！予告が流れているときから気になっていたので見えます。」等の返信が十数通あった。

番組は、魚鱗症、無痛無感症、レット症候群、色素性乾皮症等の難病の子どもと家族の日常に触れたドキュメンタリー番組だった。

番組終了後、直ぐに次のようなメールも入った。

【 今回この番組を見て今まで聞いたことのない病気を知りました。

あんなに小さな体で難病と闘う子供たちの姿を見て胸が打たれました。今までなんの不便もなく生活してきた私よりとても強いと思いました。番組を見ながら自然と涙が流れ出ていました。

世界には様々な難病と闘っている人が沢山いると思います。そのような人たちのために出来ることはないだろうか。病気について理解し、出来ることならば手助けしたいと思いました。

本人自身が病気と付き合いがなければならぬ辛さ、そして家族の苦勞の大きさ強さを知りました。それを乗り越えたからこそ今があるのだと思いました。

「生きる」・「命」について考える機会になりました。 】

【 番組も見ました！自分の知らない病気と闘ってる親子。子どもも強い心を持っているけれど、親はそれ以上に強い事に私自身もなぜか勇気づけられました。

「子は親を選んで生まれてくる」そのフレーズがとても心に響きました。私自身しっかり生きていこうとを感じる番組でした。 】

こうした感想をいただくと、授業の中で何度も何度も、「難病や障害があろうがなかろうが、共有しているのは、みんなだれでも大切な存在（生命）であり、『今を生きている』という事実。まずは自らの生命や生きることについて、日頃から考えるクセをつけるように！常に考えていれば、難病の方や障害のある方と出会っても戸惑うことなく、お役に立てることを気づけるようになる。」と語り続けていただけたら、係わり合いある延長授業（？）がようやく始まった、かな？

(2006年2月19日 記)